

< 4 年部会 >

1 学年のテーマ

「明るく前向きに生活し、誰に対しても優しく気配りのできる子を育てる」
～学年のスローガンを意識させながら、様々な活動に取り組みさせることによって～

* 学年のスローガン 「“ 輝き (か ・ が ・ や ・ き) ” いっぱい、4 年生 ! 」
か...かしこさ が...がんばり や...やさしさ き...きくばり

2 テーマ設定の理由

ギャングエイジにある 4 年生の児童には、子どもらしさを大切にしながら、のびのびと生活させることが、次に続く思春期を健全なものにする基盤となると考える。しかし、4 年生は小学校生活の中では、上学年の仲間入りをした大切な時期でもある。したがって、この時期をよい契機として、一人一人が持つエネルギーを大切にしながら、自分の目標に向かって頑張りぬく気持ちや、周りの人に対する優しさ・気配りなどを持てるような学習や体験を数多くさせることが必要である。

ところで、昨年度までの実践（各種カードの活用、人権ロードの設置、「みんながチャンピオン」の授業実践など）により、4 年生の児童たちには、目標に向かって努力しようとする気持ちや人権意識などが芽生えてきている。したがって、この良い変容ぶりの上に立って、上記の児童像を目指し、実践を重ねていくことに大きな意義があるものとする。

以上のような理由から、上記のようなテーマを設定した。その際に、年度当初に児童に提示し自覚を持たせた学年のスローガンを意識させながら、様々な活動に取り組みさせることによって、めざすべき児童を育てることとした。

* 学年のスローガン 「“ 輝き (か ・ が ・ や ・ き) ” いっぱい、4 年生 ! 」
< か...かしこさ が...がんばり や...やさしさ き...きくばり > とは・・・

このスローガンには、上学年の仲間入りをした 4 年生の子ども達には、リーダーの一員となったことを自覚し、5、6 年生を支えながら下級生の模範となり、いろいろな場面で光り輝いてもらいたいとの強い願いが込められている。そうなるために、「いろいろなことを学んで賢さを身に付けてほしい。困難なことにも取り組める頑張り、辛いことにもへこたれない頑張りを持ってほしい。周りの全ての人に対する優しさを持ってほしい。相手のことや周りの空気を察し、自分から進んで行動する気配りのできる子になってほしい。」という強い思いが 4 年担任にはあることを今年度最初の日伝えた。児童たちもそれを真摯に受け止め、4 年生という 1 年がスタートした。

3 授業を支える活動・授業以外の実践

【自】...自分を高める活動 【心】...心を豊かにする活動 【他】...他と触れ合う活動

- 各種のカードの活用（水泳がんばりカード、音読カード、かけ足カード など）【自】
- 自主学習への取り組み【自】
- 読書カード・読書ゆうびんを活用した積極的な読書への取り組み【自】【心】【他】
- ありがとうの木への掲示、観察【自】【心】【他】
- 帰りの会での「頑張り・思いやりコーナー」の設置【心】【他】
- 遠足、社会科見学、旅行などにおけるグループ活動の取り入れ【他】
- 各授業での考える活動におけるグループ活動の取り入れ【自】【他】
- 朝の 5 分間学習の時間を活用した曜日ごとの自習の取り組み
 - （月）土・日の日記【自】【心】【他】 （火）朝礼・集会の日記【自】【心】【他】
 - （水）漢字学習【自】 （木）ローマ字練習【自】
 - （金）3、4 年の漢字の読み合い【自】【他】

4 授業実践

(1) 1学期の研究授業

指導案(授業中の写真入り)

算数科学習指導案(略案)

平成20年7月11日(金)第5校時

4年1組(教室) 指導者 石田 俊彦

(授業改善の視点)

180°より大きい角の大きさを考える場面で、「自力解決の場→グループによる解決の場→全体での発表・まとめの場」といった段階的に学習を進める場の設定をすることで、児童一人一人が以下のことをすることができるようになるであろう。

学習意欲を高めたり理解を深めたりすること。

自力解決の力をさらに高めようという思いを持つよい契機とすること。

1 単元名 角(B「量と測定」)

2 単元設定の理由(略)

3 目標(略)

4 評価規準(略)

5 指導方針(「他者とのかかわり」に視点を当てた支援・手立てなど、人権教育にかかわる支援は とする。)

○児童が角を視覚的にとらえ、イメージしやすくするために、直接操作できるような教具・教材を準備する。

○角の大小を比べたり角のはかり方を考えたりするなどの「作業的な算数的活動」や「探求的な算数的活動」を促進し、児童が段階的に学習できるような学習プリントを活用する。

○児童一人一人が解決できた喜びを感じることができるよう、問題解決の時間を十分に確保する。

自力解決の場、グループによる解決の場、全体での発表・まとめの場などを学習活動の中に取り入れることで、多様な考えに触れさせながら、自力解決の力を高めていく。

○形成的評価を随時行い、指導に生かすようにする。

一人一人の考え方のよさを伸ばしたり引き出したりするために、個に応じた支援の場の設定をする。

それぞれの測定方法のよさを児童とともに話し合ったり、そのよさを認めていくような言葉かけをしたりするなど、受容的な態度で支援を行う。

級友間での学び合い、教え合い、助け合いの場を設定することで、協力して学習に取り組む態度を養ったり、級友とともに課題を解決できたという成就感を持たせたりする。

6 人権教育とのかかわり(略)

7 指導・評価計画(全12時間予定)(略)

8 本時の学習

(1) ねらい

180°より大きい角の測り方を考えることができる。

(2) 準備

教師：学習プリント、拡大分度器、ホワイトボード、タイマー、掲示物(既習事項)教科書

児童：分度器、三角定規、筆記用具、教科書、ノート

(3) 人権教育の視点(略)

(4) 展開

学 習 活 動 (児童のつばやき、動き など)	時間	学習活動への支援及び留意点 (「他者とのかかわり」に視点を当てた支援・手立てなど、人権教育)	観点評価項目(方法) ○おおむね 十分
----------------------------	----	---	------------------------

		にかかわる配慮事項には() 【 】内は人権教育にかかわる育てたい能力・態度	努力を要する児童への手だて
1 前時までの学習内容を確認するとともに本時の学習課題を知る。 「180°より大きい角のはかり方を考えよう！」	5	○前時までの学習を振り返れるような掲示物を提示する。	
2 問題を考える。 操作活動をする。 「どのようにすれば、この角の大きさをはかることができるか、いろいろと考えてみよう。＊今までの学習を生かして」 自力解決	8	○分度器の使い方が理解できていない児童には、机間指導の中で、使い方について押さえ直す。 ○自分の考えをしっかりと持つことや考えがまとまらなくても、考えたところまでを伝えられるように、一生懸命考えるよう指示をする。  	考 ○180°より大きい角のはかり方を考えることができています。 180°より大きい角のはかり方を多様な(2つ以上の)方法で考えることができています。 (操作活動) 180°までの角のはかり方を確認させた上で、180°よりも大きい角の場合でも、少しだけ工夫すると測れることを示唆する。
グループによる解決	15	○「グループ学習のポイント」や「話すルール」「聞くルール」に基づいて行わせる。【感性】【判断力】 ○ホワイトボードを活用し、グループでの考えをまとめ、発表の準備をさせる。	
発表し合って全体でのまとめ キーポイント 180°より大きい角のはかり方 180°と残りの角の大きさを合わせる方法 360°から反対側の角の大きさをひく方法 その他	15	○「話すルール」「聞くルール」に基づいて行わせる。 ○互いの考えを認めた上で、よりよいものを考えさせる。(「は・か・せ」に照らし合わせて見つけさせる。) ＊「は」...はやく 「か」...かんたんに 「せ」...せいかくに できるもの 【判断力】 ○全円分度器について、軽く触れる。	 
3 次時の学習内容への流れを知る。 「次回は、今日の学習を生かして、様々な180°より大きい角を測ります。」 (今日の学習を生かして、問題を解こう！)		○次時の学習につながるような投げかけをする。	

授業実践の成果と課題

(成果)

- 「自力解決の場→グループによる解決の場→全体での発表・まとめの場」といった段階的に学習を進める場の設定をしたことで、児童一人一人が考える習慣を身に付けるとともに、多様な考えに触れることを通して学習意欲を高めたり学習内容の理解を深めたりすることができた。

(課題)

- このような形態での学習をさらに経験させることで、グループによる解決や全体での発表の力を向上させるとともに、一人一人の自力解決の力を高めること。

(2) 今後の実践予定(8月末現在)

4学年では、1学期の実践で得られた成果等を生かし、今後も算数科を中心に授業実践を積んでいく予定である。そして、計画訪問並びに本発表は、以下のような内容で実施することとなっている。

期 日	教 科	単 元	クラス	授業者
10月14日(火) ＜計画訪問＞	算数科	面 積	4の2	笹澤 智子
11月21日(金) ＜本発表＞	算数科	面 積	4の3	小西 啓吾

5 その他の実践

(1) ヘチマの世話当番活動

理科学習の一環として育てているヘチマの世話を夏休みの間に当番日を決めて世話をさせた。水やりや草むしり、観察日誌への記入などを引き継いで行っていく中で、子ども達の心が一つにつながりながら、命の大切さを学ぶことができた。

(2)「よさを認め合い心を一つにする」学年集会の開催
4月の始業日を皮切りに、以下のように折に触れ学年集会を開催している。

ヘチマの世話当番表

日	水やり	草むしり	観察日誌
4/1	佐藤	佐藤	佐藤
4/2	佐藤	佐藤	佐藤
4/3	佐藤	佐藤	佐藤
4/4	佐藤	佐藤	佐藤
4/5	佐藤	佐藤	佐藤
4/6	佐藤	佐藤	佐藤
4/7	佐藤	佐藤	佐藤
4/8	佐藤	佐藤	佐藤
4/9	佐藤	佐藤	佐藤
4/10	佐藤	佐藤	佐藤
4/11	佐藤	佐藤	佐藤
4/12	佐藤	佐藤	佐藤
4/13	佐藤	佐藤	佐藤
4/14	佐藤	佐藤	佐藤
4/15	佐藤	佐藤	佐藤
4/16	佐藤	佐藤	佐藤
4/17	佐藤	佐藤	佐藤
4/18	佐藤	佐藤	佐藤
4/19	佐藤	佐藤	佐藤
4/20	佐藤	佐藤	佐藤
4/21	佐藤	佐藤	佐藤
4/22	佐藤	佐藤	佐藤
4/23	佐藤	佐藤	佐藤
4/24	佐藤	佐藤	佐藤
4/25	佐藤	佐藤	佐藤
4/26	佐藤	佐藤	佐藤
4/27	佐藤	佐藤	佐藤
4/28	佐藤	佐藤	佐藤
4/29	佐藤	佐藤	佐藤
4/30	佐藤	佐藤	佐藤



【第1回＜4 / 7(月)＞】

学年のスローガンを提示し、1年間の目標を持たせ、スタートを切る。

【第2回＜4 / 15(火)＞】

特別支援学級の友達への理解を深める。

【第3回＜6 / 10(火)＞】

「歯の標語」のクラス代表者、「歯のポスター」に自主的に取り組んだ子の紹介と賞賛、転出予定の児童の紹介とお別れ会



【第4回＜7 / 15(火)＞】

学年全体で取り組んだ「第一回文法実力テスト」の合格者の紹介と表彰式、「第二回文法実力テスト」の予告と激励



6 1学期までの成果と今後の課題

(1) 成果

- 様々な活動を通して、互いを認め合い、前向きな姿勢を示す児童が増えてきている。

(2) 課題

- 今後も、テーマに沿った活動を継続して、目標とする児童の育成に努める。